

地域創生
政策アイデアコンテスト
2022



銘仙でまちなかを元気に
着物が似合うまちづくり



銘仙のまち伊勢崎



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 小林香穂

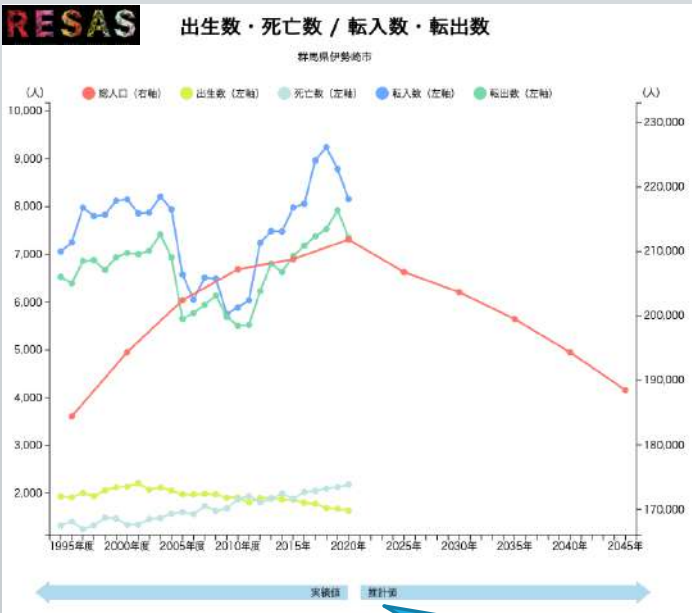
※背景には伊勢崎銘仙布地の写真を使用

伊勢崎市の紹介



地理院地図 (電子国土Web)

2020年
 ● 総人口: 211,850人
 ● 年少人口: 27,506人(12.98%)
 ● 生産年齢人口: 127,686人(60.27%)
 ● 老年人口: 53,086人(25.06%)



桑の成長に適していたため古くから養蚕が盛んであり、江戸時代には太織の産地として知られました。明治以降には「伊勢崎銘仙」が全国的に有名になり、織物のまちとして発展してきました。近年は利便性に優れた幹線道路網を活かして、製造業や大規模商業施設の進出が進み、**商工業が盛んな産業地域**となってきました。また近郊農業も盛んで農産物の生産も多い地域です。

これまで人口は増えてきたが、今後は減少に転じる。



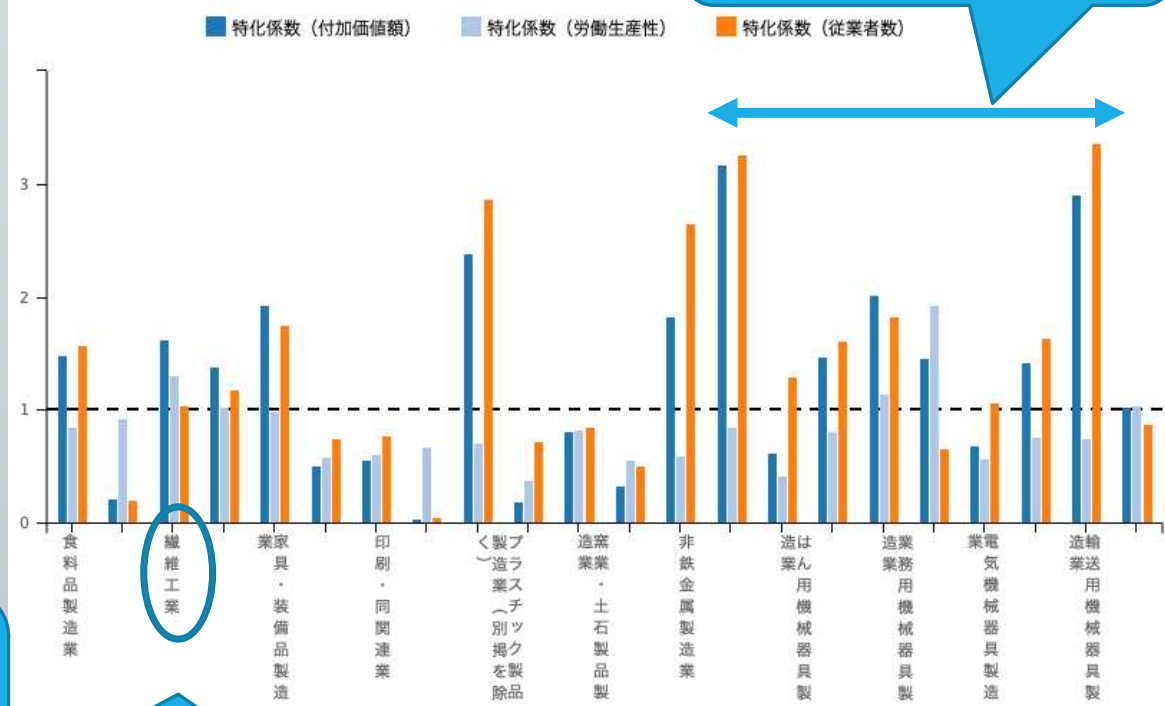
「田島弥平旧宅」PRデザイン

伊勢崎市HPより

RESAS

産業別特化係数 2016年

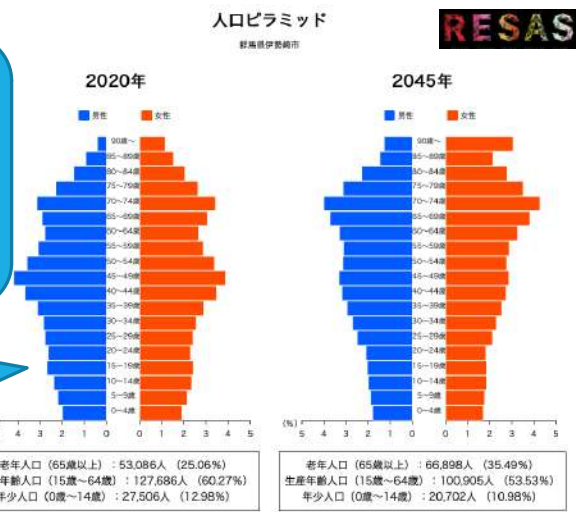
指定地域: 群馬県伊勢崎市
 指定産業: 製造業



機械製造業が盛ん。北関東工業地域の中心都市の一つ。

現在は伊勢崎銘仙はつくられておらず、産業全体の中で**繊維工業**の占める割合は多くない。

少子高齢化は周辺市町村よりは進んでいない。



2020年
 老年人口(65歳以上): 53,086人 (25.06%)
 生産年齢人口(15歳~64歳): 127,686人 (60.27%)
 年少人口(0歳~14歳): 27,506人 (12.98%)

2045年
 老年人口(65歳以上): 66,898人 (35.49%)
 生産年齢人口(15歳~64歳): 100,905人 (53.53%)
 年少人口(0歳~14歳): 20,702人 (10.98%)

伊勢崎銘仙とは

併用絣 伊勢崎銘仙の最高峰といわれるが、1960年代には生産が途絶えてしまう。



いせさき明治館



いせさき明治館

→ 製造工程 →

図案	設計	糸準備	精錬漂白	経糸 →	糸繰	整経 つなぎ	仮織り	型紙 彫	紗張 り	捺染 加工	蒸熱	経巻	引込	製織	整理	併用絣 完成
				緯糸 →	糸繰	手動 整経	板巻	型紙 彫	紗張 り	捺染 加工	蒸熱	繰り返し (パサ返し)				

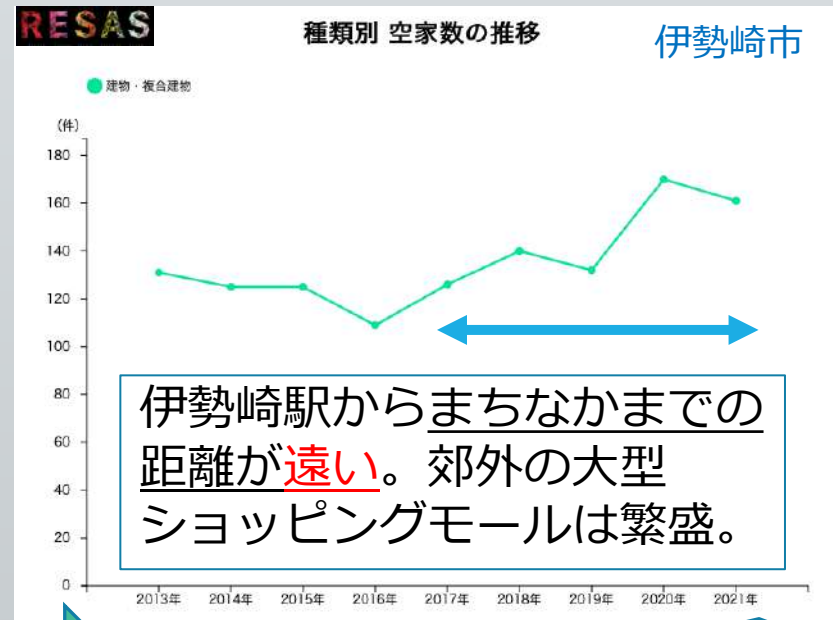
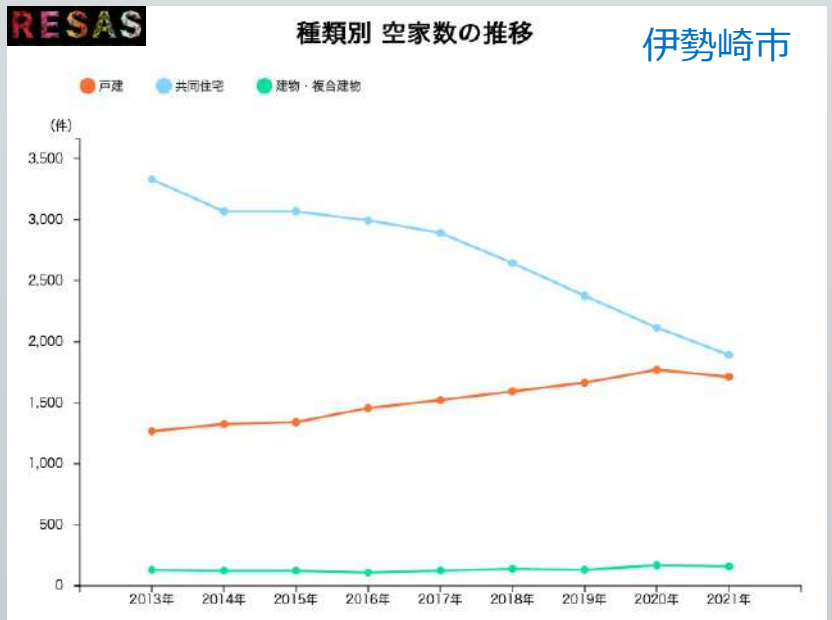
「Go!伊勢崎」の「21世紀銘仙～いせさき併用絣を紡ぐプロジェクト～」HPより

群馬県伊勢崎市付近で織り出される銘仙。享保(きょうほう)年間(1716～36)以後、農家の副業として太織(ふとお)り)とよぶ縞物(しまもの)があり、『万金産業袋(ばんきんすぎわいぶくろ)』では次絹(なみきぬ)の産地とされていた。文政(ぶんせい)年間(1818～30)に元機屋(もとはたや)ができ、農家へ賃機を出すようになってから発展。とくに絣柄(かすりがら)は世間の好みに合致し、他の産地もこれに倣うほどで、第二次世界大戦前の最盛期には、**わが国最大の銘仙生産量**を誇っていた。絣には**併用絣**、緯総(よこそう)絣、珍(ちん)絣などがあり、型紙捺染(なっせん)、板締めを併用して織り出され、意匠面にもくふうを凝らしたものが多い。

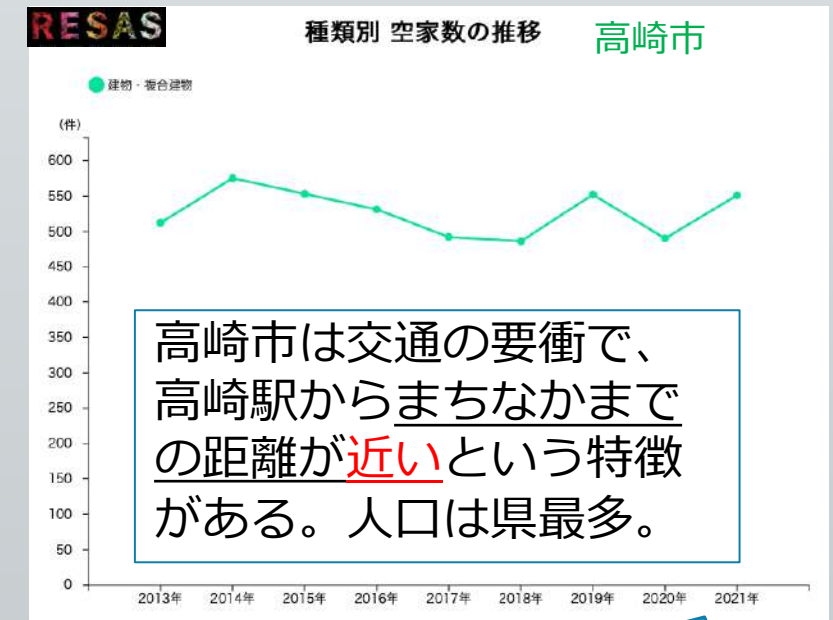
「日本大百科全書」より

伊勢崎市のまちなかが抱える課題

まちなか・・・
市の中心商店街



伊勢崎駅からまちなかまでの距離が遠い。郊外の大型ショッピングモールは繁盛。



高崎市は交通の要衝で、高崎駅からまちなかまでの距離が近いという特徴がある。人口は県最多。

伊勢崎市の空き家

細かく見ると

- ・ 共同住宅の空き家は減る
- ・ 戸建の空き家は増える
- ・ 建物・複合建物の空き家は微増？

新型コロナ流行の少し前から

ここ数年、さらに建物・複合建物の空き家が増えている。

高崎市との比較

建物・複合建物の空き家の増減はほぼ一定。



まちなかに増える空き店舗

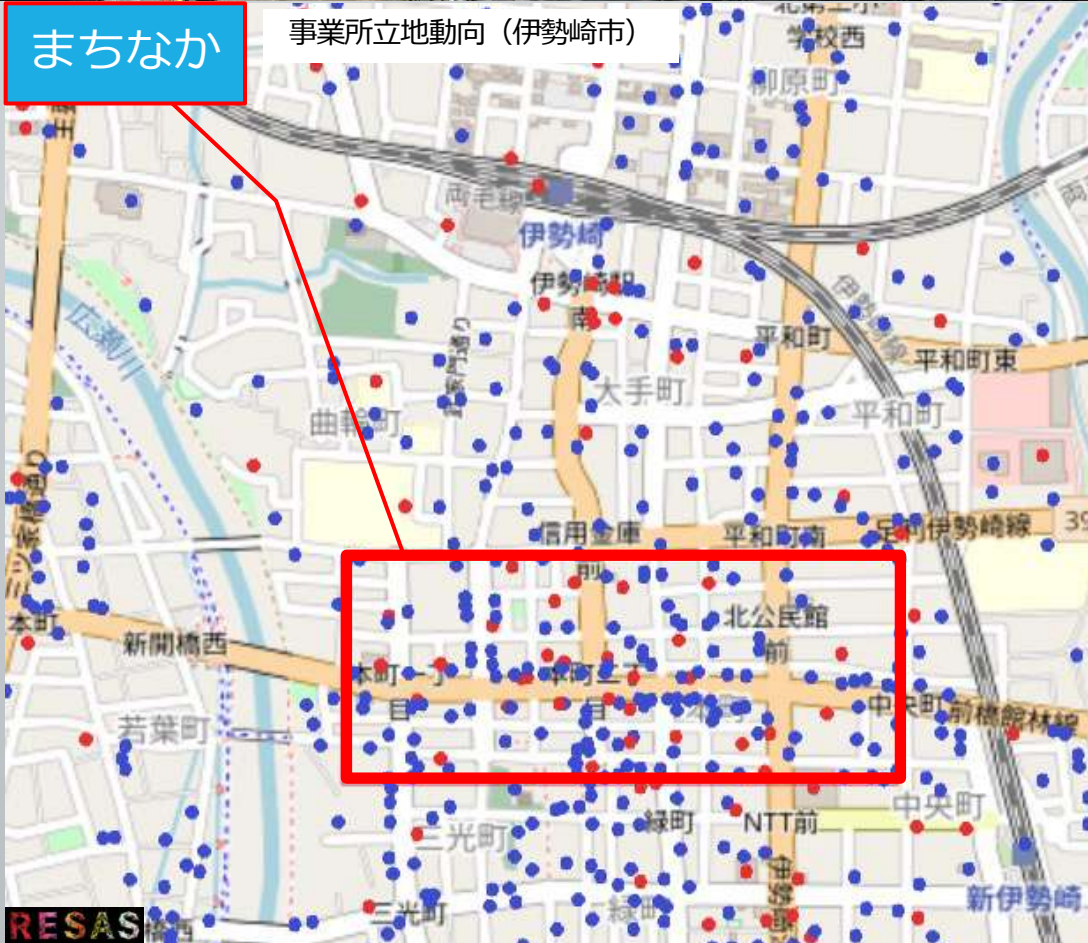
特にまちなかではここ10年で・・・

- ・ まちなかの事業所数は388件 (25.6%) 減少
- ・ 商店街振興組合等に加盟する事業所数は77件 (50%) 減少
- ・ まちなかの人口はここ10年間で870人以上減少
- ・ まちなかの高齢化率は32.3% (市全体の25.4%に比べ6.9%高い)

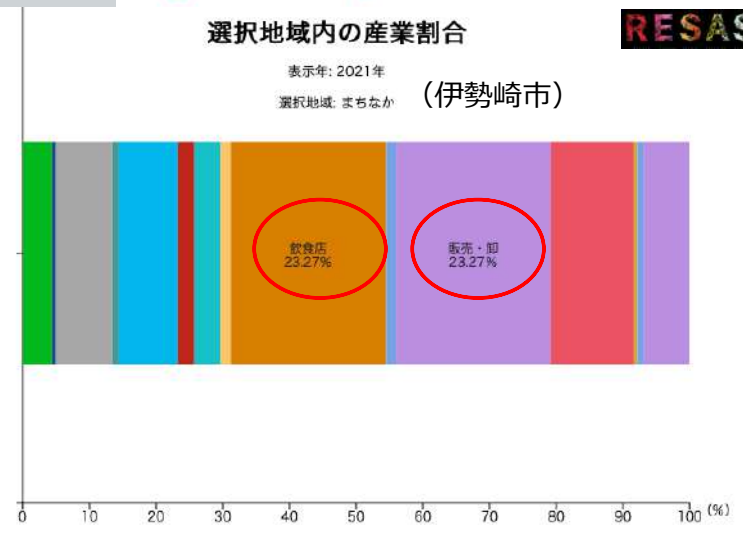
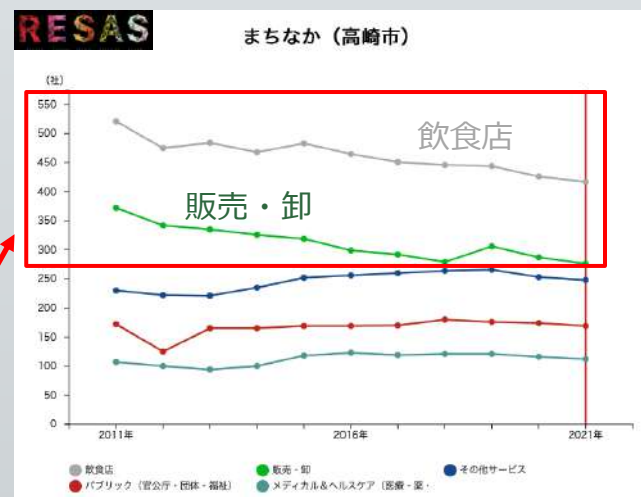
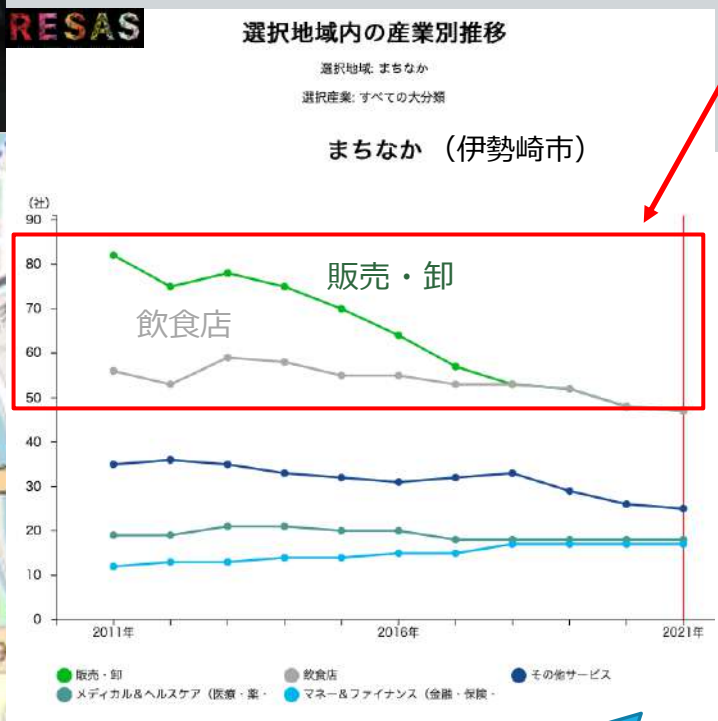
求心力の低下

伊勢崎市商工労働課より

まちなかを詳しく分析



県内で最も発展している高崎市のまちなかと比較し、伊勢崎市のまちなかは**販売・卸**の減少が激しい。



販売・卸と飲食店がおよそ半数を占める地域だが、共に減少傾向が見られる。

- パブリック (官公庁・団体・福祉) 9社 (4.48%)
- ライフライン (電気・ガス・通信・放送・新聞) 1社 (0.5%)
- マネー&ファイナンス (金融・保険・証券) 17社 (8.42%)
- プロパティ (不動産取引・賃貸・展示場) 5社 (2.48%)
- 飲食店 47社 (23.27%)
- 販売・卸 47社 (23.27%)
- 建設・工事 2社 (0.99%)
- メディア&ヘルスケア (医療・薬・保健衛生) 18社 (8.91%)
- スクール&カルチャー (学校・趣味教室・図書館) 8社 (3.96%)
- トラベル (旅行・観光・温泉・旅館・ホテル) 3社 (1.49%)
- スポーツ&レジャー (スポーツ・趣味娯楽・レジャー) 0社 (0%)
- ドライブ (自動車・オートバイ・自転車・ドライヴ) 3社 (1.49%)
- 出版・印刷 1社 (0.5%)
- その他サービス 25社 (12.38%)
- 一次産業 (農林・水産・鉱業) 0社 (0%)
- 二次産業 (製造・加工) 14社 (6.93%)

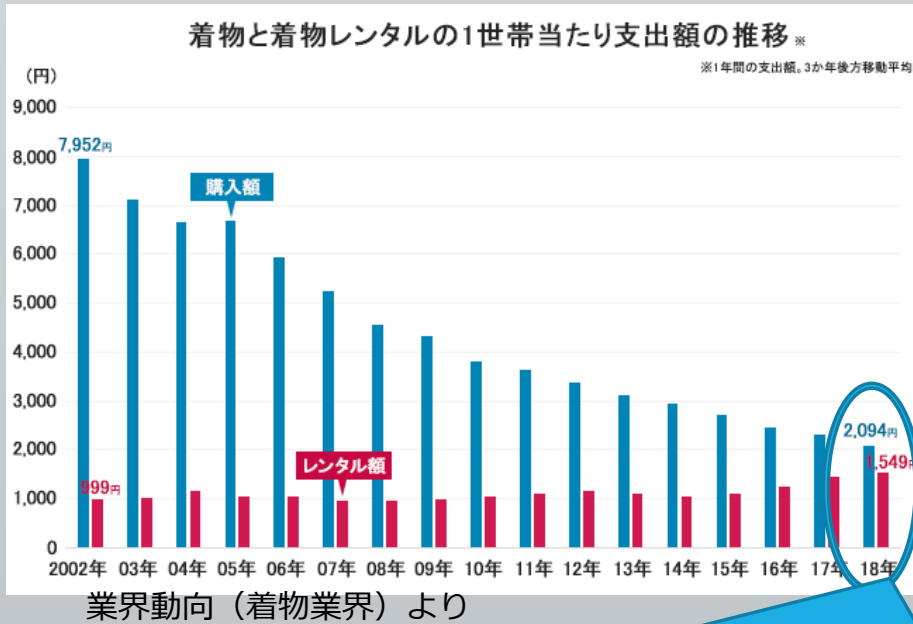
私がこれまで行ってきたこと

<総合的な学習の研究テーマ>

着物の現代の在り方について

～着物文化をこの先も継承していくための提案～

1 現代における着物の利用状況の調査



- ・着物の売上は右肩下がり
- ・わずか16年で着物購入支出は6割も減少
- ・2018年ではレンタルが5割に迫る勢いで、今後主流になることが予想できる

2 着物の利用が減った理由の調査

祖母・曾祖母への聞き取り調査等



- ・戦前は着物を着ている人が多かった。
- ・戦争により贅沢禁止に。
- ・着物は解体されモンペに。

3 現代風にアレンジされた着物の調査

伊勢崎銘仙を使った現代の服やアップサイクルしたがまぐち桐生織の技術を活かした小物

4 着物文化をこの先も継承していくための提案

実践してみたい！

① 着物の現代化

着物に込められた技術を活かし、これからの産業やビジネスの発展につなげていくこと。

② 古着で地域おこし

ダンスに眠っている着物を寄付してもらい、祭りなどのイベントで貸し出しを行う。

「まちなか宝さがし」に参加

これまでの研究成果の**実践**の場として



「まちなか宝さがし」とは、伊勢崎のまちの課題や魅力・使い方などについて4日間で検討して頂くプログラムです。伊勢崎のまちなかを実際に歩き、まちの現在の姿を見ながら、「まちなかの魅力=宝は何だろうか」「自分達ならばまちなかの宝をどんな風に使うか」について考え発表を行います。

2022 全4回 土曜日 7/16, 8/6, 8/20, 9/17 対象 参加 無料 定員 25人

主催 伊勢崎市/伊勢崎市まちなか活性化支援会議
協力 前橋工科大学 堤研究室

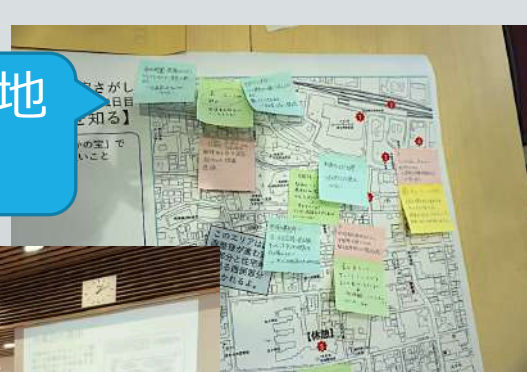
お申込はこちら



プロジェクトに選ばれた約25名で5つのグループをつくり、そのメンバーと共にまちなかを歩き、気づいたことを話し合い、まとめる活動。

- ・まちなかの魅力 (= 宝) を発見し、それをどのように活用するかを考える**ワークショップ**。
- ・まちなかの将来に関心のある人を参加者として実施。
- ・まちとどのように向き合うか、基本的な考え方を共有するための**ビジョンの策定**に**関与**。

気づいたことを地図にメモする。



ワークショップグループごとに提案をまとめる。



私たちのグループの発表に耳を傾ける**臂泰雄市長**

私たちのグループの提案



多様な6人のメンバー
リサイクル着物ショップの経営者
学校の先生 歯科技工士
大学生2名 中学生（私）

いせさき明治館
銘仙の展示が充実している。



テーマ

明治から令和へ 銘仙とともに広げる輪

キャッチコピー

大切なものを見失っていませんか？

私たちの小さな糸が紡ぐ

「銘仙のまち伊勢崎」の未来

かつて日本中を虜にした**伊勢崎銘仙**。
その魅力を後世に伝えつつ、新たな価値を創造し、魅力ある伊勢崎のまちおこしにつながるようなプランを提案する。

※背景には伊勢崎銘仙布地の写真を使用

概要



まちなかの中でも中心にある空き店舗。蔵造りの風情ある建物。

伊勢崎銘仙をテーマに、まちなかの空き家や空き店舗などを活用して、着付け体験やイベントなどを行う。

伊勢崎銘仙の着付けは小規模な空き店舗でもできる。



以前に行われた着物の着付け体験のイベントのようす。

「伊勢崎は銘仙のまち」
そう誇れるまちづくりを目指したい。

着物を着てどこを歩く？



鎌倉（神奈川）



浅草（東京）

関東にある着物が映えるまち



富岡（群馬）



川越（埼玉）

「伊勢崎も着物が映えるまちになれるだろうか？」

そういった視点でまちなかを発掘してみた。

伊勢崎にはかつて日本中を虜にした柄がある

明治時代の後半になると、動力式の織機が導入され一部が工場化されるなど生産量を伸ばしていきましたが、伊勢崎銘仙は**複雑な模様**や風合いを特徴としていたため、高機による手織り生産が引き続き行われていきました。大正から昭和初期にかけて、**銘仙生産量は全国の半分**を占めるまでに至り、伊勢崎銘仙の黄金期と呼ばれるまでとなりました。

伊勢崎市HPより



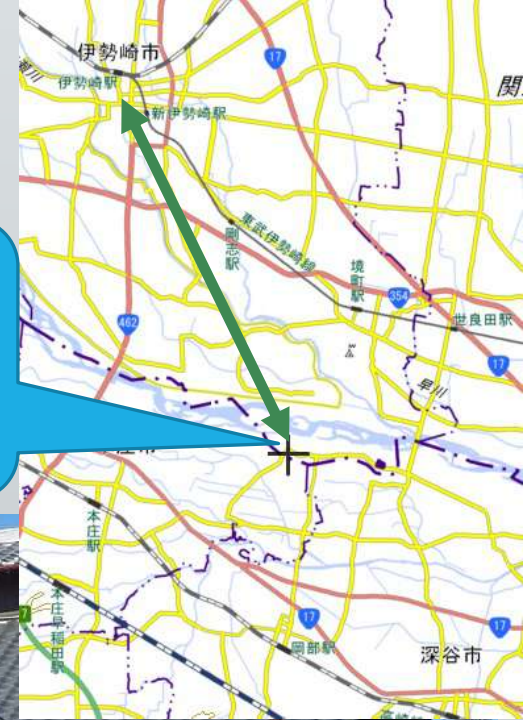
銘仙柄でまちをコーディネート



伊勢崎駅 駅ピアノ
銘仙柄、**唯一無二**のデザインが一際目立つ。2022年7月デビュー。こういったデザインをまちなかにさらに増やせるよう働きかけを行いたい。

花、人物、乗り物、動物、建物、文様などさまざまな柄が**人々を魅了**した。

世界が認めた絹産業遺産もある



世界遺産 田島弥平旧宅
伊勢崎市の南端、埼玉県の本庄市、深谷市との境に立地する。まちなかから約20kmと離れているのが課題。

伊勢崎市境島村の蚕種製造農家であった**田島弥平**は、1863年（文久3）に換気システムを取り入れた革新的な蚕室構造を開発し、自然の通風を重視する「清涼育」を大成しました。この蚕室構造は弥平が著した養蚕書「養蚕新論」「続養蚕新論」によって各地に広まり、**近代養蚕の原型**となりました。また、島村の人たちは**蚕種**の直輸出を通じた海外交流を行いました。
ググッとぐんまHPより



地理院地図（電子国土Web）

田島弥平



※背景には伊勢崎銘仙布地の写真を使用

伊勢崎銘仙を着て風情ある街並みを歩こう



いせさき明治館
現存する県内
最古の2階建て
洋風医院建築物
で、和洋折衷の
造りが特徴。

着物が似合うまちが
ここにもある。



蔵



丁字路の道路



相川考古館



同聚院の武家門



旧時報鐘楼



大手町パティオ



伊勢崎神社

鎌倉時代の創建と伝えられる由緒ある神社、現在の社殿は江戸時代のものです。伊勢崎銘仙の端切れを用いたお守り袋や御朱印帳が手に入る。

伊勢崎駅～本町

立派な蔵、敵の攻撃を防ぐために屈曲させるカギ型、丁字路の道路などの城下町を偲ばせる裏小路。江戸時代の商家と茶室が残る相川考古館、伊勢崎藩主稲垣長茂の屋敷門と伝わる同聚院の武家門、大正の面影を今につ伝える旧時報鐘楼、古民家をリノベーションした大手町パティオ等、歴史を感じることができる。

まちなかをもっと元気に！

伊勢崎駅の1日平均乗降客数

約18000人

JR東日本 12242人

統計情報リサーチ2019年

東武鉄道 5612人

東武鉄道HP2021年

高崎駅、前橋駅に次ぐ県3位

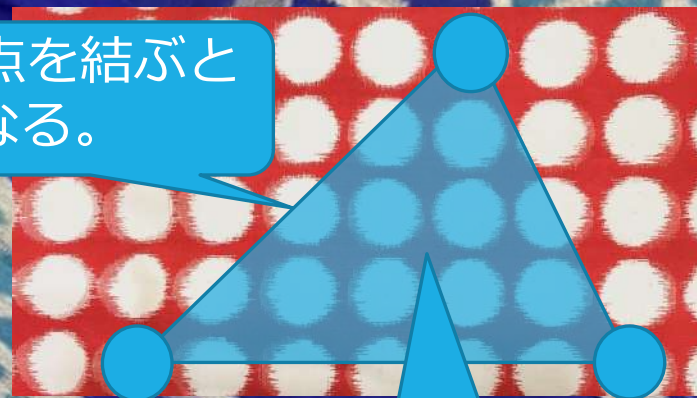
乗降客数は増加傾向



この勢いを
まちなかに！

いせさき銘仙で
伊勢崎駅とまちなかをつなぐプロジェクト

点と点を結ぶと
線になる。



伊勢崎駅からまちなかの中心である本町までは約1 km。離れていることが、まちの求心力が失われる原因の一つ。

こんな感じで伊勢崎駅とまちなかのお店をつなぐ。
伊勢崎銘仙を使って。

伊勢崎駅
線がつながると
面になる。



まちなかのお店

まちなかのお店

※背景には伊勢崎銘仙布地の写真を使用



事業化に向けてのスケジュール

まずは**駅前**に多くの人が集まると予想される、毎月第3土曜日の「いせさき楽市」にあわせて**イベント**を企画

仮装して来場してくれたおさま限定！お菓子のつかみ取り参加無料

いせさき RAKUICHI 楽市

同時開催 高校生フェスタ

2022.10.15 [土]
9:00-13:00 雨天中止
伊勢崎駅前南口駅前広場

ワークショップ
BOOK STORE
FOOD TRUCK
VEGETABLE SHOPPING
DRINK BREAD
TRICK TREAT

先着プレゼント 数量300名 10:30～ 抽くお菓子類 配布終了

よりなおの会場について
市営0号線と一線に交差しているため
アンケートを実施しています。[11/20まで]

まちなかアンケート実施中

- 10月
- メンバーが**伊勢崎銘仙**を着て、いせさき楽市に合わせて**駅前**にテント出店。まちなかのお店の商品の一部を販売、PRする。
 - まちなかにある**伊勢崎神社**で銘仙の端切れで小物づくり**ワークショップ**を開催。
 - こうやって、まちなかまでの**人の流れ**をつくる。

いせさき 軽トラ朝市

10/15 [土] 雨天中止 8:30~11:00

伊勢崎市の地域振興・まちおこしの一環として
当所地域振興委員会主催による
軽トラ朝市を年5回程度、開催しています。
交通規制：午前8時～正午まで
いせさき駅南口駅前広場の通り
閉鎖 伊勢崎商工会議所地域振興委員会
事務局：商工課課 0270-24-2221

第16回 光のページェント
いせさき～とうかえ～

燈華会

踊り神楽、浄土舞、五穀豊穡、地域警備...
浄土を献じて、願いましょう。地域の明るい未来を。

2022年10月15日 土曜日
15:00～21:00 雨天中止
いせさき明治館周辺、赤石学舎

参加者募集

一線は灯籠を渡って、燈を灯してくれる
市民やボランティアを募集いたします。申請申込みは郵書
費は1500円に、お菓子を頒布費者に請求させていただきます。
また申し込みは必ずご郵書して頂きます。

キッチン・カールドメ&カフェコーナー
ドリンクや軽食を販売いたします。ご就労時に併せてご利用ください。

- 11月
- 10月の内容を改善して実施
加えて・・・
 - メンバーによる**銘仙着付け体験** & **まち歩きイベント**を開催
 - 銘仙を着た人、銘仙の何かを身に付けた人、着物の人などに
商店が**特典**をつける。

さらに・・・

- 有識者による**伊勢崎銘仙座談会**を開催。伊勢崎銘仙やその歴史を知る機会を定期的に提供し、伊勢崎銘仙の歴史や文化を次世代に伝承する取り組みを展開。
- 地域の老舗商店の協力を経て、学生たちが**銘仙を着て一日店長**を務める機会をつくる。
- 銘仙を着てまちなか商店街のお茶やお菓子を楽しむ**銘仙カフェ**の実施。
- 伊勢崎織物共同組合やいせさき明治館、メンバーが経営するリサイクル着物ショップと連携して、伊勢崎銘仙の着物や小物の購入やレンタルを**気軽に**できるようにする。

こういった活動を継続して行い、発信していくことで定着をはかり、来年度以降、**事業実施や情報発信拠点の整備**などにつなげていく。



銘仙カフェ



座談会



着付け体験



日本茶専門店

まちなかの協力店



和菓子専門店



焼き芋専門店



伊勢崎神社
ワークショップ
の会場

銘仙特典、1日店長、銘仙カフェなど

伊勢崎銘仙で広がる未来

着物や小物を身につけてまち歩きを楽しむ 事業をまちなかの商店と連携して実施し、市民の日常に伊勢崎銘仙を定着させる取り組みを行う。

「伊勢崎銘仙」をキーワードにして、人と地域のつながりや新たなファンを生み出し、かつて日本中を虜にした伊勢崎銘仙の魅力を後世に伝えつつ、新たな価値を創造し、魅力ある伊勢崎のまちおこしにつなげる。



※背景には伊勢崎銘仙布地の写真を使用

し山春秋

伊勢崎市の地名は戦国時代に伊勢宮が建立され、にぎわい始めた伊勢宮の前の通りが「伊勢前」と呼ばれるようになったことが由来とされる。伊勢崎城ができて城下町が形成され、後の銘仙に代表される織物業の拠点として繁栄した。JR伊勢崎駅は城下町の北側に当たる▼子どもの頃、伊勢崎駅を利用して家族と買い物に出かけた。商店が軒を連ねる中心市街地に繰り出し、

名物「もんじゃ」を味わい、映画を愛した。人混みを撥り抜けたながら歩いた昔が懐かしい▼ところが近年は空き家、空き店舗が目立つ。お気に入りだった商店や映画館は駐車場や空き地に変わった。人通りもめっきり減り、寂しい気持ちになる▼先日、にぎわいを取り戻そうと地元有志が集い、活性化策を考えた。「まちなかお宝さがし」をテーマに、市が公募した10代から50代の24人が創業者などの立場からアイデアを出し合った▼キッ

チンカーを集めた催しや駅前フリーマーケット、空き店舗を使った着物体験、史跡や名所をつなぐ観光コースの創設、駅近くの学習スペースなどが提案された。これを基に来月17日、有識者を交えたシンポジウムを開く。地域づくりに向け市と情報を共有する▼アイデアは身近な内容が多く、にぎわいを何とか取り戻したいという熱意が伝わってくる。眠っている地域の魅力をお宝として磨き上げ、地域振興の起爆剤としてほしい。

2022・8・29

上毛新聞
地元紙に掲載された
私たちの活動

まちなかお宝発見シンポジウム

伊勢崎市まちなか活性化支援会議 主催

まちなかお宝発見 シンポジウム

まちなかに眠るお宝の活用方法や、
目指す方向性について意見交換を行い、
まちなかで共有すべきビジョンについて
理解を深めるためのシンポジウムです。

2022.09.17(SAT)

主催
協力
参加費
事務局

伊勢崎市まちなか活性化支援会議／伊勢崎市
前橋工科大学 堤研究室
無料
伊勢崎市産業経済部商工労働課
©0270-27-2754 ✉shoukou@city.isesaki.lg.jp



まちなかお宝発見シンポジウム

左から

堤洋樹先生（前橋工科大学准教授）
秋山麻紀さん（まきばプロジェクト代表）
高山華代さん（私たちの班の代表）
臂泰雄市長（伊勢崎市長）

優秀事例発表

私たちのグループの提案
は**最優秀**に選ばれ、伊勢
崎駅前広場で開催された
シンポジウムで伊勢崎銘
仙を着て発表を行った。



今後の課題

- 10月、11月のイベントから得られる経験を基に、改善を加える。
- イベントへの参加者を増やすために広報活動を工夫して行う。
- イベントを運営するボランティアの確保。
(市が募集する地域おこし協力隊との連携)
- まちなかの協力店を増やす。
- まちなかの空き店舗を活用し、事業実施や情報発信拠点の整備する。
- 活動を継続的に行えるような資金の確保。
- 伊勢崎駅～まちなか「着物を着て歩きたくなるまちなかMAP」(仮)の作成。
- 銘仙柄を前面に出したデザインの推奨。
(例) 看板、公共施設や店の壁
- 伊勢崎銘仙に関する展示の充実。「伊勢崎銘仙館」(仮)ができるように働きかけ。

シンポジウムの反響

発表後、70歳代の女性が私に声をかけてくれた。この方のご実家は、約半世紀前に伊勢崎銘仙を扱う仕事をされていたそうだ。私の着物姿を見て、「本当に懐かしい。昔の記憶が蘇る。」と仰って目を細めていた。この活動を行って、本当によかった感じた瞬間だった。地域の大切な記憶を傳承していくことの意義を実感した。

このプレゼン資料は
銘仙柄でデザイン

★中長期的な課題
伊勢崎銘仙を私たちの
まちのシンボルと
誰もが感じられる存在にする。

